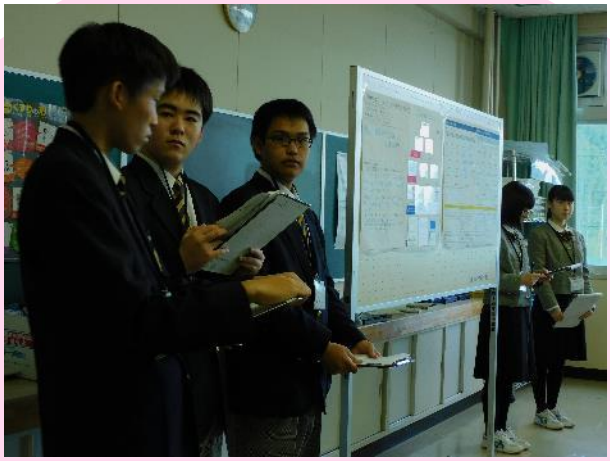
令和元年12月3日（火）

「1学年探究発表会・地域協働研究協議会　」

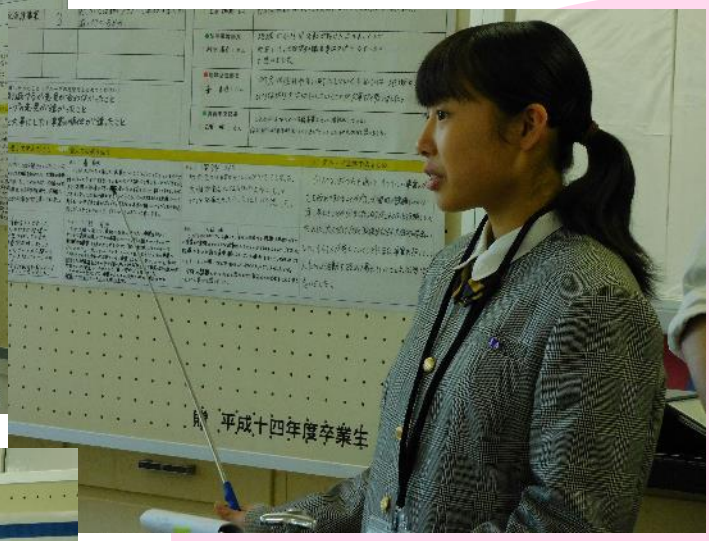
12月3日火曜日、1学年の「探究発表会」と、「地域協働研究協議会」が本校で行われました。
平野公三大槌町長、沼田義孝大槌町教育委員会教育長をはじめ町教委の皆様方や、町内外の県内各学校の先生方35名が本校に来校されました。

生徒たちは、「SIMおおつち2030」を通して学んだことを発表しました。
「SIMおおつち2030」とは、生徒たちが、町の存続のために行政事業の継続/廃止を議論するという行政運営シミュレーションゲームです。生徒自身がその行政事業の担当部長になりきるという設定の下、生徒の担当部署の事業を継続させようと、他の生徒と議論をしながら最終的に優先順位をつけていきます。9月に大槌町役場へ出かけ、実際に担当者からヒアリングを行い、10月に「SIMおおつち2030」を実際にプレイ。「目指したい大槌町の未来像」をまとめたものを今回発表しました。

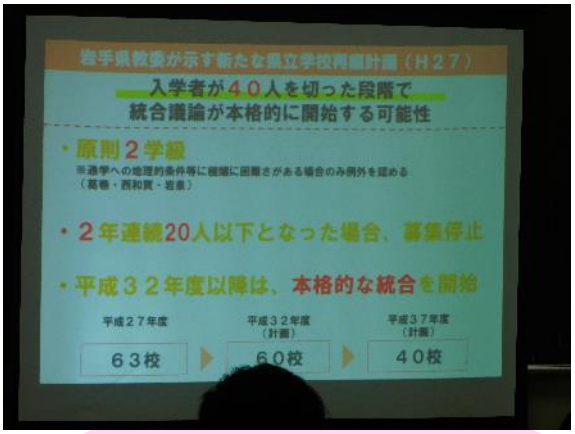
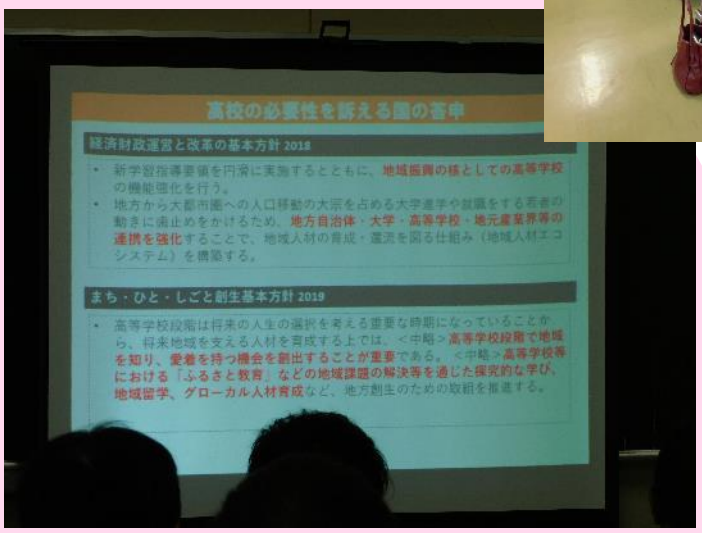


3ケ所の教室に分かれスタート。自己紹介や場を和ませるゲーム「アイスブレイク」、発表とすべてを任された生徒たちは、はじめは緊張した面持ちでした。しかし、参加した方々が快くアイスブレイクに協力してくださり、発表も温かく見守ってくれたおかげか、次第に緊張もほぐれていきました。

　それぞれのブースで前半グループ・後半グループに分かれて発表をしている生徒たちは、グループ全員が役割を持っており、協力して発表を終えることができました。



参加者は、各班の「目指したい大槌の未来像」をまとめたポスターや、今年度の大高祭でも展示した1年生の「自分ポスター」を見ていました。

地域協働研究協議会では、大船渡高校の梨子田喬先生から大船渡高校の実践についての講演をいただき、また、本校の魅力化推進員の菅野さんから大槌高校の実践も発表しました。

質疑応答では、「生徒のために教員はどのようなサポートをしていくべきか」「生徒が興味をもつためにはどのような仕掛けをするべきか」など、他校で探究活動を実践している先生方からの質問が飛び交いました。最後に、岩手県教育委員会高橋直樹主任指導主事から総括としてお話をいただきました。「探究的な学び」とは、疑問がその場の活動で終わるのではなく、その後の活動にも続いていき、深めていくものである。その「探究的な学び」を生徒にさせていくためには、3年間を見通したカリキュラムとして考えていくべきである、といった内容でした。